揺れながら思うこと

動物応用科学科 3 年　嶋本祐子

毎日私は電車の中で、線路沿いに生えている草や住宅街の向こう側にある木々を見ながら大学に来る。植物も空もなぜこんなにキレイなのか。なぜこんなにいい色をしているのか。

私は黄色や緑色が好きだ。しかしどんなに気に入ったものを探しても、自然の色には似つかない。同じ植物でもそれぞれ違う色を持ち、日向だったり日陰だったり時間によっても変わっていく。たくさんの色が存在するのも、自然界に数え切れない色があふれているからだろう。そう思えば、私は自然からたくさんのものが生み出されて、恵みをもらっているのだと思う。

しかし、今窓越しに通り過ぎていくのはたくさんの人工物。コンクリート、鉄柱、電線、プラスチッ
ク・・・強風にもなびかず、たたずむそれらの中で、所々生き物が太陽を目指して背を伸ばしている。人間にとって、本当に必要だったのか。便利な暮らしとは何なのか。

時の流れを考えると不思議で、祖母が子供だった頃は当たり前のように自然があり、持続させ利用して生きていた。父や母が子供の頃には確かに里山もたくさんあり、田畑もあり、木製

の家具に囲まれていた。そのうち電化製品が流通し、道路や線路がどんどん日本中を固めていった。きっと当時は新しいもの、新しい世界に目を輝かせていた。しかし求めていたものは現代のこの状況なのだろうか。　私達が大人になる頃にはどうなっている？昔と今で確かに変わっている。きっとこれからも変わっていく。40 年後、この街はどう変わる？

車窓の景色を見ながら、私は今日も揺られていく。答えの出ない疑問を浮かべながら、素直に生きたいと願っている。